

RUGBY FOOTBALL

FEB.2011
Vol.60-4 NO.346

RUGBY:FOR ALL

「ノーサイドの精神」を、日本へ、世界へ。

得点王、ベストフイフティーン受賞
インタビュー
オレニ・アイイ
「下ヨタ自動車ヴェルブリッツ」



日本代表でも
頑張ってください！

プレーオフトーナメント報告 MVPは、堀江翔太

ジャパンラグビートップリーグ 2010-2011
三洋電機ワイルドナイツ初優勝

FOR ALL チャリティーマッチ
TOP LEAGUE ALL STAR
FOR ALLのピットでのキックを支援し、トップリーグオールスター

3月6日、瑞穂公園ラグビー場で開催

ラグビー
スクールに
行こう

第38回 みなとラグビースクール



開校から1年に満たない新興ながら、
山手線内に唯一という立地のためか、
口コミであっという間に在籍数が増加中。
東京でいま注目のスクールです。

文◎藤本幸俊

秩父宮ラグビー場のすぐ近く、"超都会派"スクール

港区にラグビースクールが誕生したという話はきいていましたが、秩父宮ラグビー場からこれほど近いとは。練習場所の港区立青山小学校のグラウンドからは、秩父宮ラグビー場の南側に隣接している、あの伊藤忠のビルとオラクルのビルが間近にみえます。その間には、秩父宮ラグビー場の照明灯も見えます。

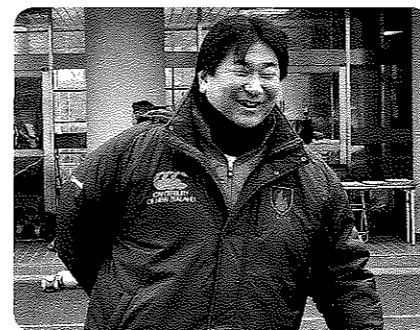
練習は日曜日。青山通りから少し脇に入ったところにある青山小に、続々とやって来る子どもたち、コーチ、そして保護者の方々。同席させていただきましたが、練習の1時間前には、コーチらによるミーティングをきっちり。グラウンドには受付も設置され、終始、事務局の方が待機し、全員の名札がそろったボードで出欠確認。さらには、外国人の子が多いので、「リエゾン」のピブスを身につけた通訳のスタッフも――。

みなとラグビースクールは、2010年の春にスタートしたばかりで、まだ1年を経過していないわけですが、運営体制は、見事の一言です。

スクールを校長として率いているのは、OBとして明大中野、明治大学でコーチを歴任、明治大学の前の藤田監督の下では、会社を退職してヘッドコーチまで務めていた黒崎祐一さん。黒崎さんの経験・人脈が大いに活かされています。

2009年の11月、ここ青山小学校のグラウンドが人工芝になったことが、スクール誕生のきっかけだそうです。そのお披露目に、秩父宮ラグビー場が近いということで、青山小の校長先生からラグビーのイベントをぜひお願いしたいという話が日本ラグビーフットボール協会にあり、その際に、地域のラグビースクールを、という話が持ち上がりました。黒崎さんが、日本協会の普及育成委員であったこともあり、スクールの校長に就任。練習場所と

ここで、みなとラグビースクールは土地柄が、外国の子どもさんがとても多くいます。取材に訪れた日は、スキーのイベントに行っている子が多数とかで、写真ではさほど目立ってはいませんが、実に4人に1人が外国人。口コミで、このスクールの評判が広がっているそうです。



校長の黒崎さん



左が七戸代表、右がアドバイザーの山口さん(元サントリーサンゴリアス、黒崎さんの大学の同級生でもある)



パスの練習です。照れないで声をかけて

して青山小のグラウンドが提供されることになりました。

この背景には、港区と日本協会が連携協力をしており、「ラグビーを通じたスポーツ振興活動の展開」に取り組んでいることでもあります。

港区議会議員の七戸淳氏がスクールの代表を務めるほか、ラグビー関係者はもちろん、地元の商店街やライオンズクラブなどが顧問に名を連ねています。人的資源の豊富さに驚きます。

そこに、山手線内の唯一のラグビースクールという希少性、港区で地下鉄の外苑前駅から至近という圧倒的なアクセスのよさもあり、スクール生の急増という現象を生じさせているようです。在籍数は、この日も4名が新たに登録、99名になっていました。

4人に1人が外国人

これだけ多いと、まさに異文化交流で、子どもたちにはよい経験だと思いますが、通訳を始めとして、運営サイドにはやはりご苦労があるようです。「日本の子はそれなりに真面目にやるんですが、外国の子にとってはあくまでレクリエーションなんですね。文化の違いを感じます」と黒崎さん。夏には菅平での合宿も敢行し、子どもがとても成長したなど、父兄の評判も良かったとのことですが、外国の子は「夏は、ロングバケーションで、本国に帰ってしまうので」合宿は残念ながら不参加。

また、グラウンドは人工芝で思いきり走り回れるのですが、試合などとてもできない狭さも課題です。スクールは設立初年度で、多数の子がラグビー初心者。狭いながらも工夫して練習をしています。さすがにそろそろ

は、整列して

女の子もいますよ

広がりがほしい。この2月からは、高学年・中学生と、それ以下の子は練習時間をずらしていくことになりました。遠征・試合をしていくにも、外国の子が多いので、予定を知らせて周知してもらおうのも大変で、まだそこまでは難しい状況でもあります。都会ならではの悩みです。

しかし、しっかりした運営体制の下、なんらかの解決策を見出していつてくれるのではないのでしょうか。

黒崎さんは、「ラグビーを楽しむ、どんなときもきまりを守る、みんなのためにがんばる、最後まであきらめない、この4つがスクールの活動方針です。いかにプレずに運営していくか、私は命をかけて、体を張ってでも、いまの雰囲気を受け継ぎたい」と力強く語ってくれました。

そして子どもにラグビーは危険ではないか、と心配する親御さんに向けて、メッセージをお願いしました。

「ラグビーは、怪我をすることがあります。ただしっかり基礎を習って、真摯に取り組めば、そのリスクを最小にしていけることができます。それに怪我というリスク以上に、教育的側面とか、仲間とか、得られるものが大きいと思います。ですからチャレンジさせる勇気をお父さんお母さんにも、もってもらいたいですね」



練習前、黒崎校長の話をきく子どもたち



ランニングで体を温めて



ヘッドコーチの高橋さん



練習の合間にひと息



ゲーム形式の練習



はい、整列して



女の子もいますよ